

いのちがつながる木

— 茨城大会ポロシャツデザインに込めた願い —

第38回全国仏教保育茨城大会のポロシャツデザインには、今回の大会テーマである「みんな幸せほけの子～いのちと心をつなぐ保育の力～」という願いが込められています。

このデザインを中心となっているのは、大きく広がる一本の「木」です。

幹から伸びた枝は、やがて左右から互いに寄り添うようにつながり、大きなハートの形を描いています。これは、人と人とのつながり、子どもと保育者とのつながり、そして“いのちと心がつながっていく姿”を表しています。



保育とは、ただ知識を教えることではありません。子どもたち一人ひとりの思いに寄り添い、安心できる関係の中で、その子らしく育っていくことを支える営みです。

子どもたちは、人との温かな関わりの中で、「自分は大切にされている存在なんだ」と感じながら成長していきます。その安心感が、やがて人を信じる力や、自分を信じる力へとつながっていきます。

このハートの形には、仏教保育が大切にしてきた「慈悲の心」も込められています。

相手を思いやること。違いを認め合うこと。誰かの痛みに気づけること。そして、共に生きること。

そのような温かな心につながりが、子どもたちの未来を支えていくのだと思います。また、この木には色とりどりの葉が描かれています。

同じ葉は一枚としてなく、それぞれが異なる色や形を持っています。これは、子どもたち一人ひとりの個性や、多様ないのちの輝きを表しています。

子どもたちは皆、それぞれ違う育ちをしています。得意なことも、苦手なことも、好きなことも、表現の仕方も、一人ひとり違います。しかし、その違いこそが、その子だけの大切な個性であり、かけがえのない輝きです。

私たち保育者は、その違いを比べたり、揃えたりするのではなく、「あなたはあなたのままで大丈夫」と受け止めながら、その子らしい成長を支えていきたいと願っています。

木の根元には、蓮の花が描かれています。蓮は、泥の中から美しい花を咲かせることから、仏教では「清らかな心」や「希望」の象徴とされています。どのような環境の中でも、子どもたち一人ひとりが、自分らしく花を咲かせてほしいという願いを込めました。

また、根の部分には数珠が描かれています。数珠は、人と人のご縁や、仏さまとのつながりを表しています。全国から集う保育者同士が、この大会を通して出会い、学び合い、支え合いながら、新たなご縁を結んでいってほしいという願いも、このデザインには込められています。

さらに、この木は大地にしっかりと根を張りながら、空へ向かって大きく枝を広げています。それはまるで、子どもたちの姿そのもののようです。安心できる土台があるからこそ、子どもたちは挑戦することができる。愛されているという実感があるからこそ、自分らしく羽ばたいていける。

私たち保育者は、その“根”を支える存在でありたい。そんな思いも、このデザインには込められています。

子どもたち一人ひとりのいのちが、温かなつながりの中で、その子らしく輝いてほしい。

そして、保育者自身もまた、共に学び、支え合いながら歩いていける存在でありたい。このポロシャツには、そんな茨城大会の願いと祈りが込められています。